



2019 年全日本スーパーフォーミュラ選手権 (SUPER FORMULA 2019) 第 3 戦:スポーツランド SUGO (宮城県柴田郡村田町) レース報告書

予選: 6 月 22 日 (土)

天候	曇り時々雨	
観客動員数	7,800 人	
成績	アレックス・パロウ 選手 (#64):	8 位
	牧野 任祐 選手 (#65):	7 位

決勝: 6 月 23 日 (日)

天候	曇りのち晴れ	
観客動員数	18,800 人	
成績	アレックス・パロウ 選手 (#64):	13 位
	k 牧野 任祐 選手 (#65):	14 位

<予選レポート>

九州で行われた第 2 戦から約 1 カ月のインターバルをにおいて第 3 戦はスポーツランド SUGO で行われました。TCS NAKAJIMA RACING の 2 台は前戦でダブル入賞を果たし、今大会でも上位に食い込んでいけるよう満を持して、まずは公式予選に臨みます。

今大会の公式予選は、Q1 を 2 つのグループに分ける方式がとられ、各組の上位それぞれ 6 台が Q2 へ進出することになりました。抽選の結果、グループ分けは、アレックス・パロウ (64 号車) が B 組、牧野任祐選手 (65 号車) が A 組で Q2 進出を目指すことになります。

予選日のスポーツランド SUGO は梅雨のさなかの不安定な天候で、雨が降ったり、時折晴れ間が差したりするものの、終日、雲が多い天候となりました。

Q1 の A 組の時間はウェットコンディションが発表されていたものの、少し日が射す中で行われ、牧野選手は 3 番手タイムで Q2 に進出します。一方、B 組がスタートする頃には雨が降り始める状況の中、パロウ選手は 4 番手タイムで順調に Q2 に進出します。

Q2 が始まる頃には雨が止み、牧野選手は 2 番手、パロウ選手は 4 番手で順調に勝ち進み、Q3 に挑みます。

Q3 では、8 台が熾烈なアタックを繰り広げる中、SP コーナーの出口でパロウ選手がコースオフし、直後に同じ場所で牧野選手のコースオフが続き、このアクシデントにより赤旗が掲示され、そのまま Q3 が終了となりました。

<コメント>

中嶋 悟 総監督:

「Q2 までは不安定な天候のなか順調に進んでいましたが、Q3 では 2 台ともコースオフで予選を終える結果となりました。しかしマシンの調子は悪くありませんし、元気よく行った結果なので、明日が楽しみです。気持ちを切り替えて頑張ります」

アレックス・パロウ 選手:

"The car and the team were looking great and we were sure for top 3, but the condition in Q3 was tricky. It was wet and I went off and crashed a little. It was not the way we wanted to finish, but we were in Q3 and start from P8 in the race tomorrow, which is very long, so I will try to make a good start."

「チームもマシン調子がとてもよさそうで、トップ 3 には入れると思っていましたが、Q3 のコンディションがトリッキーでした。ウェットでコースアウトして、少しくラッシュしてしまいました。私たちが望んだ結果は得られませんでした。Q3 に進出できました。明日は 8 位スタートですが、長いレースなので、いいスタートを切りたいと思います」

牧野 任祐 選手:

「Q2 までは順調で Q3 でもクラッシュするまではベストを出せていたので、別の車両に引っかけりダウンフォースを失い、縁石に乗り上げてコントロールを失ってしまったのは残念でした。明日は気持ちを切り替えて頑張ります」

<決勝レポート>

決勝日も曇りがちの天候でしたが、雨が降ることはなく、レースはドライコンディションで行われます。8 番グリッドからスタートを切ったパロウ選手は 10 番手でオープニングラップを終えます。

その周とその翌周に早めのピットインをするマシンが複数あり、数周すると 6 番手を走行、20 周目には前を走るマシンがピットに入り 5 番手に浮上。トップとは 20 数秒の差があるものの、前走のマシンとは 5 秒差ぐらいの間隔で走行していく。

最後までピットインを引っ張ったパロウはトップを走っていた 56 周目に他車のアクシデントでセーフティーカーが導入されたタイミングでピットイン。ミディアムタイヤに交換後、コースに復帰する。

残り 7 周時点でリスタートを切るが、直後に再びセーフティーカーが入り、そのリスタート時にフライングをしてしまう。これに対してペナルティが課され、13 位でレースを終えました。

一方、7 番グリッドからスタートの牧野選手は、スタートで 1 つポジションを上げ、さらに翌周には 3 番手を走行します。この順位で前走のドライバーとの差を詰めたり広げられたりしつつ 50 周を終えたところでピットイン。

牧野選手もミディアムタイヤに交換しましたが、ピットアウトの際にホワイトラインカットしてしまいます。牧野選手はピットアウト以降、「真っ直ぐに走ることが難しい」とマシンの不調を訴えつつも、懸命にコントロールをして走行していきますが、原因不明のトラブルにより再度ピットインを強いられます。ソフトタイヤに交換して、コースに戻るとトラブルは解消していたが、残り周回が少なく、ポジションは 13 番手。レース後にホワイトラインカットに対するペナルティが課され、最終的な結果は 14 位となりました。

<コメント>

中嶋 悟 総監督:

「途中までは順調でしたが、ピットイン後から何もかもがうまくいきませんでした。牧野は原因不明のトラブルで、パロウは再スタート時のフライングで、それぞれにポジションを落とす結果となりました。今シーズンも中盤に入り、これまでの結果をしっかりと見直して次戦に臨めるようにしたいと思います。たくさんのご声援をいただき、どうもありがとうございました」

アレックス・パロウ 選手:

"It had been a difficult race weekend. We decided to start the race with soft tires but I got stuck behind cars on medium tires, so I could not gain positions. During the race I got lucky that we had SC, which made our pit stop really quick. Then unfortunately, I did overtaking at safety car restart and was penalized, which cost us the result of finishing P5 taken away. We have 2 weeks to focus on Fuji, our home race, and we will work for Fuji 100%."

「難しいレースでした。ソフトタイヤでのスタートを決めましたが、ミディアムタイヤで走る車両で前方が詰まってしまう、ポジションを上げられませんでした。途中でセーフティーカーの導入があり、そこで素早くピットストップできましたが、レース再開の際に追い越し違反でペナルティを受けたため、5 位フィニッシュがなくなっていました。これからの 2 週間は、私たちにとってホームレースでもある富士大会に向けて 100%集中します」

牧野 任祐 選手:

「ソフトタイヤでのスタートを選び、最初はいいペースで走れましたが、その後、中盤で調子が落ち、また調子が戻ってピットストップでミディアムタイヤに交換すると走行困難になってしまいました。飛び出しもあって再度ソフトタイヤに交換すると、再び調子を取り戻しましたが、その時点でレースが終わってしまいました。今はまだ気持ちの整理が付きませんが、これまでチャンスを結果に繋げられていないので、次回こそは頑張ります」



※次戦(第4戦)は7月13日～14日に富士スピードウェイ(静岡県駿東郡小山町)で行われます。

以上